



平成27年7月13日
内閣府（防災担当）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（第3回） 議事概要について

1. 検討会の概要

日時：平成27年6月11日（木） 15:00～17:00

場所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：阿部座長、今村委員、入倉委員、岡村委員、佐竹委員、谷岡委員、橋本委員、平川委員、平田委員、古村委員、松澤委員、翠川委員、三宅委員
海洋研究開発機構 三浦グループリーダー

2. 議事概要

佐竹委員から、大地震の多様性と減災に関する金森博雄教授による講演内容について、海洋研究開発機構 三浦氏から、日本海溝および千島海溝における太平洋プレート上面深度等について、話題提供があった。続いて、事務局から日本海溝・千島海溝から沈み込む太平洋プレートの形状や千島海溝沿いの地震で想定する津波について説明を行った後、議論を行った。議論の概要は、次のとおり。

- 1906年のコロンビア・エクアドル地震のケースではMw8.8の最大規模のクラスの後にそれより小さいクラスが3回起きている。こういう事例を踏まえて東北地方においてもM9のあとにM8クラスが起きるということを考え、M8クラスを検討する。
- 津波の発生を検討する領域は日本海溝・千島海溝に加え小笠原付近までを検討範囲とする。
- 太平洋プレートの形状の検討においては、文部科学省委託研究で日本海溝を範囲に行われた精度の良い海底地震観測のデータがあるのでそれを参考にしようか。
- 今回の検討においては広範囲において検討する必要があるため、津波の伝播について地球の弾性や海水の圧縮性などの影響を考慮した検討をしようか。
- 天皇海山の反射波も含めて考慮した場合で津波の推計を実施し、比較検討してみようか。
- 断層の破壊が広範囲で生じるため、破壊伝播の違いによる影響を検討する必要がある。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当参事官 名波 義昭

同企画官 中込 淳

同参事官補佐 池田 雅也

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-6820